

記録的な大雪の師走

19日の月曜日は名古屋で22cmの積雪があり、58年ぶりの記録的な大雪となった。写真は雪をかき分けて朝早く大学に来て、研究室のベランダから撮ったものだ。一面の銀世界であり、数日前の晩秋を感じさせてくれた景色が一変した。ことしは暖冬という長期予報が出されていたが、20年ぶりの寒波に修正された。気象予報でもきちんと「説明責任」を果たしてもらいたい。

下の写真は大雪の翌朝に撮ったもので、学生たちが製作した雪ダルマである。なかなか愛嬌があり、気温が低いために2日ほど原型を残していた。街なかを歩いていると、こうした雪ダルマを目にすることが多かった。

雪といえば中学時代に高山で経験した「38豪雪」を思い出す。名古屋から高山に移り住んだ翌年だったと思うが、高山でも一晩で1m近くの積雪があった。北陸などでは記録的な豪雪により「孤立」する地域も多くあった。とにかく慣れない雪かきに

追われたことを記憶している。雪は遠くから眺めたりしていると風情があるが、生活にも支障をきたすだけでなく、災害をもたらす生命の危険にもさらされる。

じつは昨日、わたしも雪でかなり危険な目にあった。朝早く大学に向かう際に、雪で凍りついていた地面に足を滑らして転倒して、腰を地面にぶつけてしまった。いつものようにリュックを背負っていたので、幸い頭を打たないで助かった。腰と腕に痛みを感じたが、恐る恐る駅に向かった。



(2005年12月23日 記)